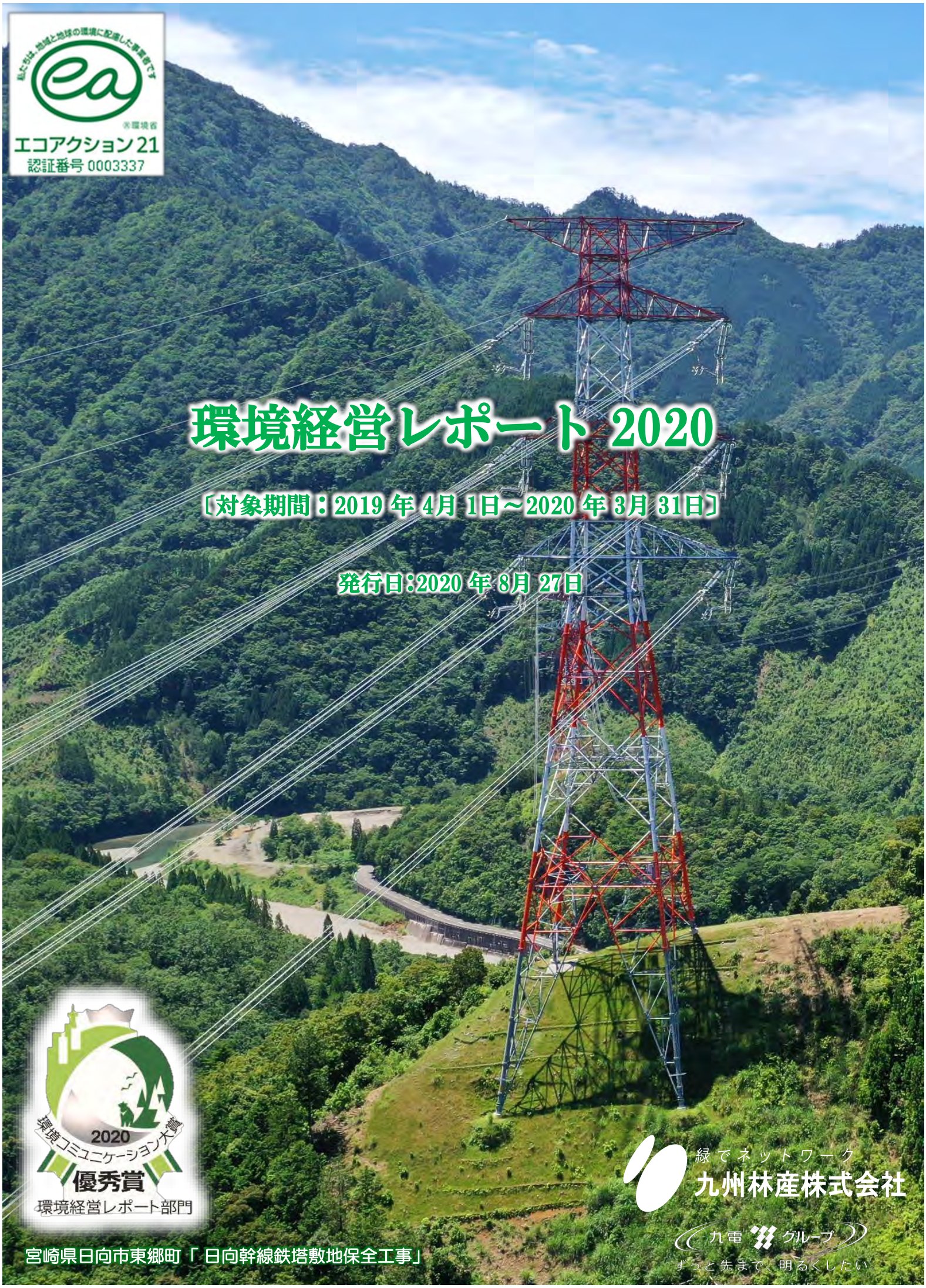


私たちは、地域と地球の環境に配慮した事業者です

※環境省

エコアクション21

認証番号 0003337

環境経営レポート 2020

〔対象期間：2019 年 4月 1日～2020 年 3月 31日〕

発行日：2020 年 8月 27日

2020 環境コミュニケーション大賞 優秀賞 環境経営レポート部門

宮崎県日向市東郷町「日向幹線鉄塔敷地保全工事」

緑でネットワーク

九州林産株式会社

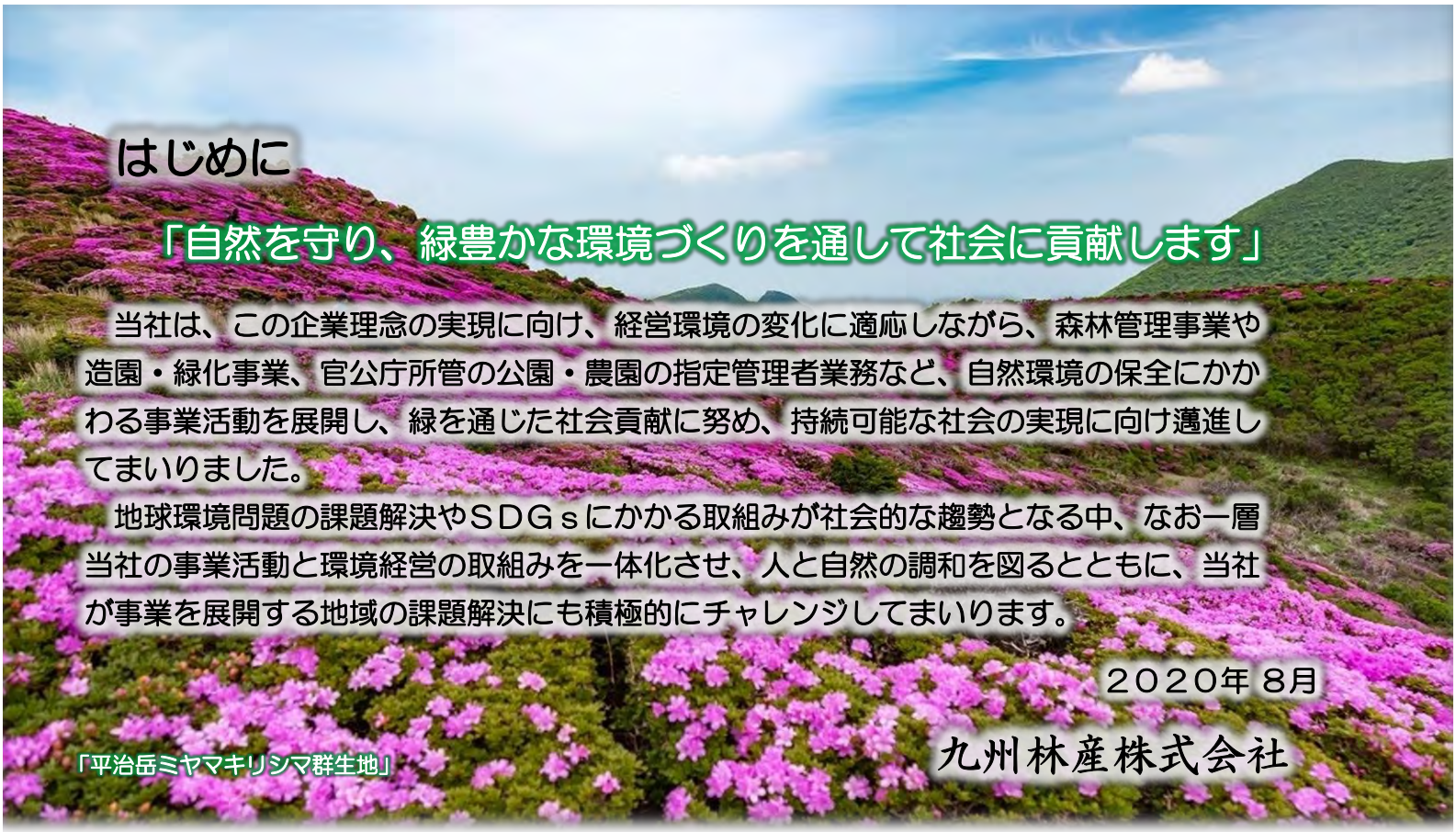
九電グループ

ずっと先まで、明るくしたい

ー 目　次 ー

はじめに …… 1
経営方針・環境経営方針 …… 1
沿革 ～ 環境と共に歩んだ歴史 ～ …… 2
会社概要 …… 3
当社のビジネスモデル …… 4
2019年度環境経営目標・実績・評価 …… 6
環境パフォーマンス（環境保全コスト、マテリアルバランス） …… 7
<具体的な取組み内容>
環境経営方針1 低炭素社会への貢献 …… 8
環境経営方針2 循環型社会への貢献 …… 10
環境経営方針3 自然共生社会への貢献 …… 12
環境経営方針4 社会との協調 …… 16
環境経営方針4 社会との協調（環境教育関連） …… 18
環境経営方針4 社会との協調（指定管理者施設における取組み） …… 20
環境経営方針5 環境管理の推進 …… 22
2020年度環境経営目標・環境経営計画 …… 24
代表者による全体評価と見直しの結果 …… 25

「水源の森百景：山下池山林」



はじめに

「自然を守り、緑豊かな環境づくりを通して社会に貢献します」

当社は、この企業理念の実現に向け、経営環境の変化に適応しながら、森林管理事業や造園・緑化事業、官公庁所管の公園・農園の指定管理者業務など、自然環境の保全にかかわる事業活動を展開し、緑を通じた社会貢献に努め、持続可能な社会の実現に向け邁進してまいりました。

地球環境問題の課題解決やＳＤＧｓにかかる取組みが社会的な趨勢となる中、なお一層当社の事業活動と環境経営の取組みを一体化させ、人と自然の調和を図るとともに、当社が事業を展開する地域の課題解決にも積極的にチャレンジしてまいります。

２０２０年 8月

九州林産株式会社

「平治岳ミヤマキリシマ群生地」

環境経営

〈経営方針〉

【企業理念】

１自然を守り、
緑豊かな環境づくりを通して
社会に貢献します。

２技術力を高め、
優れた製品とサービスを提供し、
お客さまの信頼に応えます。

３創造力と行動力をつちかい、
活気あふれる
企業風土をつくります。

【行動指針】

１人と自然の調和を求め、
快適環境づくりを考えます。

２知性と感性を磨き、
技術の向上に努めます。

３時代の声、お客さまの声を
今日の仕事に活かします。

４柔軟な発想で新しい価値を創造し
常に可能性に向かって
チャレンジします。

５信頼と協調に努め、
活力ある明るい職場をつくります。

〈環境経営方針〉

【基本理念】

九州林産株式会社は、「自然を守り、緑豊かな環境づくり」という企業理念のもと、すべての事業活動において環境保全意識の重要性を認識し、持続可能な社会の構築を目指します。

【基本方針】

１　低炭素社会への貢献

低炭素社会の実現に向け、節電、節水、エコドライブ、低公害機械の活用等による省エネルギー･省資源化を推進し、事業活動に伴う温室効果ガス排出抑制に努めます。

２　循環型社会への貢献

廃棄物の再資源化、グリーン購入の徹底、伐捨間伐材などの未利用資源の有効活用等に取組み、循環型社会の形成に貢献します。

３　自然共生社会への貢献

事業活動により環境に与える影響を低減するため、生物多様性への配慮や化学物質の使用抑制などに取組み、自然と共生できる社会の構築に貢献します。

４　社会との協調

環境情報を積極的に公開し、ステークホルダーとの連携･協調により社会とのコミュニケーションを図ります。

５　環境管理の推進

環境関連法規の遵守はもとより、環境関連情報の共有化を図り、全社一体となって環境マネジメントシステムの品質向上に努めます。

制定日：2007年12月14日
改正日：2019年　7月29日

沿革　～ 環境と共に歩んだ歴史 ～

年	表
1919（大正8）	**・九州水力電気㈱が原野造林に着手**
1923	・自社生産苗による植林開始
1942（昭和16）	・九州配電㈱発足
1949（昭和24）	**・九州林産㈱発足**
1951	・九州電力㈱発足
1965（昭和40）	**・造園・園芸事業参入**
1973	・工場立地法公布
以降	・緑化事業を拡大
1991（平成3）	・CI導入 企業理念制定
1995	・山下池山林が「水源の森百選」に認定
2001	・九電グループ会社環境推進部会発足
2002	・ゾーニング施業導入
2004	・FSC®森林認証取得
2005	・くじゅう坊ガツル湿原がラムサール条約登録
2008	**・指定管理者制度へ参入**
2008	・EA21認証取得（本店）
2009	・EA21全社認証
2010	・生物多様性国家戦略閣議決定
2011	・「次世代の大分森林づくりモデル林」第1号に指定（山下池山林）
2012	・モデル林第5号に指定（飯田山林）
2013	・モデル林第15号に指定（平家山林）
2013～2014	・「生物多様性ガイドライン」策定
2014	・環境教育の場「くじゅう九電の森」整備
2016	**・九電みらい財団と本格的な環境教育への取組み開始**
2019	・九州電力社有林100周年

■九州電力社有林に息づく、先人たちのＤＮＡ

1919年（大正8年）、「永久に消えない電灯を灯したい」との願いから、九州水力電気㈱（1919～1941）は、発電用水力電源として水源涵養林保育の必要性に着眼し、九州の尾根地帯（大分県玖珠川・大分川上流の分水嶺）に用地を求め、山林の育成に着手しました。これが今日当社が管理する九電社有林のはじまりであり、同時に当社の源流も九州水力電気(株)の林業部門に求めることができます。

当時の社有林用地は、放牧のための野焼きが繰り返された痩せた原野が広がった高冷地であり、水源涵養林として成林し得るのか疑問視する声もありましたが、自営苗圃を新設し、樹品種の選定や植栽密度等試行錯誤の末、今日の九電社有林の礎となる原野造林事業を確立しました。この実績が大分県の原野緑化･治山･治水政策へ繋がり、民有原野の植林意識を喚起したことから、社有林は大分県下における原野造林の先駆者として高い評価を得ています。

棚橋琢之助翁の植林事業

この碑は、遠く大正の初期、水力発電の水源涵養の目的で筑後川・大分川の水源地帯の原野に植林を企画し、幾多の苦心と困難を重ね、遂に今日見る4000町歩に及ぶ美林育成の基礎を確立された、故棚橋琢之助翁の徳をたたえる為、親しく翁の指導を受けた有志の発起によって建立されたものです。

当時、高冷で地力に劣る九州背梁地帯の原野への植林は前例稀であり、更に大面積に亘って実施することは頗る困難な事業でした。〈中略〉翁は、この困難な事業を確固たる決意と信念を持って見事に成し遂げられました。〈中略〉

大分県政の一つの柱「原野緑化・治山・治水」も翁の原野造林の成果に負うところが大きいといっても過言ではなく、この実績は民有原野の植林意欲を喚起する原野造林の生きた手本となっています。〈中略〉翁の遺徳を偲び、翁の愛林精神を受け継いでこの美林を更に逞しく美しくしていくことが私共に課せられた使命です。

昭和 40年 8月　九州電力株式会社、九州林産株式会社

原野造林を推進し、今日の九電社有林（水源涵養林）の基礎を築いた棚橋翁の石碑

■九州林産株式会社の誕生

1949年（昭和24年）3月20日、当社は九州水力電気(株)から経営を引き継ぐ九州配電株式会社（現九州電力(株)）の林業部門から分離独立、九州林産株式会社として創立し、森林経営を受託することとなりました。2019年（令和元年）会社創立70周年の節目を迎えました。

水源涵養林用地を求め現地視察へ

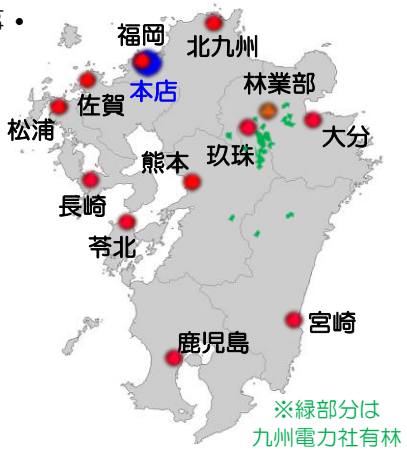
■緑化部の発足と九州全域での事業展開

1965年、社有林内に所在する山下池双湖台の緑地公園化とゴルフ場の造成・植栽工事を機に造園・園芸事業に着手しました。

1968年に造園工事業大分県知事登録、1970年に建設大臣登録の認定を受け、受注体制を構築しました。

1973年の工場立地法の制定に伴い、九電グループの施設や敷地の緑化・環境維持対策を主に、官公庁や民間の造園工事・工場緑化を手がけ、事業規模を大きく拡大してきました。

今では、九州各地に11の事業所を構えるに至り、「緑でネットワーク」をスローガンに、環境に密着した事業を展開しています。



福岡県護国神社
樹木枯枝除去及び樹林内伐採工事

福岡市
南庄西公園整備工事

■公園・農園等の指定管理者業務への取組み

これまで培った緑地管理のノウハウを活かして、2008年から公共の公園・農園等における指定管理者業務への取組みを開始しました。2019年4月からは、福岡市・福岡県の既存の5施設に加え、新たに北九州市立文化記念公園の指定管理者に指定されました。各施設の特徴を活かした独自の自然体験イベントの開催やボランティア活動等の地域貢献により高い評価を得ています。

〈今津リフレッシュ農園
いちご収穫体験〉

■環境教育への取組み

2015年、九電グループのＣＳＲ経営推進に向けたシンボリックな活動として、九州電力社有林内に環境教育の場「くじゅう九電の森」を整備しました。2016年、九電みらい財団の設立とともに、本格的に社有林を舞台とした環境教育への取組みを開始し、参加者から高い評価を得ています。

〈くじゅう九電の森 環境教育〉

■ＳＤＧｓと当社の環境経営

持続可能な開発目標(SDGs)とは、2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標です。当社はSDGｓに関連する環境経営に取り組んでおり、今後も事業活動を通して、社会課題の解決に貢献していきます。

会 社 概 要

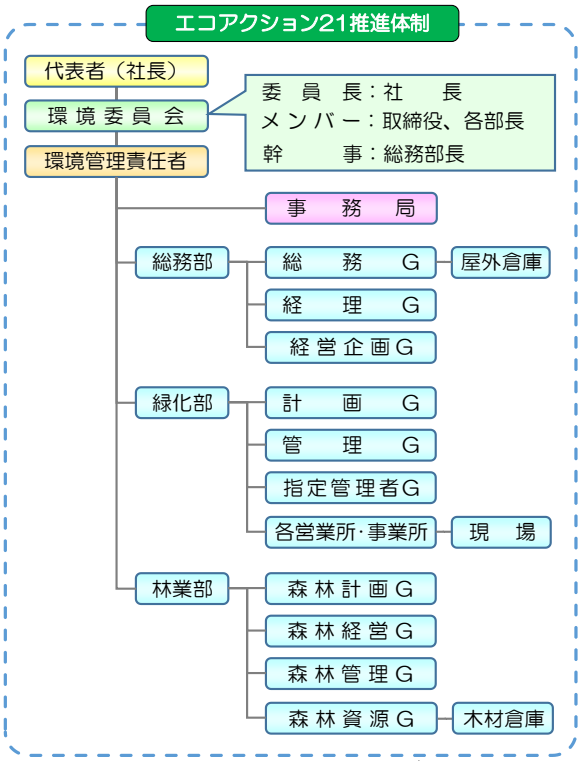
■ 概要

（社　　名）九州林産株式会社
（代 表 者）代表取締役社長 中島 豊
（資 本 金）4億9000万円
（事業所・規模・所在地）

対象事業所	事業規模		所　在　地
	従業員数	のべ床面積	
本　　店	35人	1,894.94 ㎡	福岡市南区野間3丁目7番20号
福 岡 営 業 所	6人		
北九州営業所	6人	39.77 ㎡	北九州市小倉北区米町2丁目2番1号(新小倉ビル)
大 分 営 業 所	5人	79.20 ㎡	大分市大字青崎4番1
玖 珠 事 業 所	2人	38.00 ㎡	大分県玖珠郡九重町大字田野字中村下野1672-61
佐 賀 営 業 所	5人	100.43 ㎡	佐賀県東松浦郡玄海町大字今村字浅湖4112-1
長 崎 営 業 所	6人	88.00 ㎡	長崎県西彼杵郡長与町高田郷1809-1
松 浦 事 業 所	1人	132.50 ㎡	長崎県松浦市志佐町白浜免字楼楷田302
熊 本 営 業 所	4人	56.70 ㎡	熊本市東区健軍2丁目18番26号(入大ビル2F)
苓 北 事 業 所	4人	116.28 ㎡	熊本県天草郡苓北町大字年柄字苓陽1091-6
宮 崎 営 業 所	4人	101.31 ㎡	宮崎市江平西1丁目3番6号(第8丸三ビル841号)
鹿児島営業所	5人	106.90 ㎡	鹿児島市下荒田3丁目24番7号
林　業　部	27人	1,028.17 ㎡	大分県由布市湯布院町中川815-1
合　　計	110人	3,782.20 ㎡	

（事業活動）土木工事業、建築工事業、造園工事業、園芸事業、とび･土工工事業、造林事業、木材事業、不動産賃貸業
（許　認　可）国土交通省大臣許可 特28-第1615号
・特定 造園工事業　・特定 土木工事業
・特定 とび･土工工事業　・特定 建築工事業

■ 組織図



■ 環境管理責任者及び担当者

（責任者）総務部　経営企画グループ
グループ長　徳留 雅大
（担当者）総務部　経営企画グループ
笠 このみ・林 香那美
（連絡先）092-562-3014
（ＵＲＬ）http://www.q-rin.co.jp

■ 主な資格取得者一覧（2020/3/31現在）

林業技士	5名	造園技能士（1･2級）	8名		
森林情報士（1･2級）	3名	建築士（1･2級）	3名		
森林管理士	11名	建築施工管理技士（1･2級）	1名	建設業経理士（1･2級）	15名
造園施工管理技士（1･2級）	44名	測量士	1名	環境教育インストラクター	9名
土木施工管理技士（1･2級）	38名	衛生管理者	4名	ビオトープ管理士（1･2級）	8名

当社のビジネスモデル

■ 持続可能な環境経営サイクルを目指して

当社は、「緑をつくる」「環境を守る」「森を育て活かす」「新たな価値の創造」を事業領域のキーワードに、緑を通じた事業活動の中で社会との共有価値の創造に努めており、「低炭素社会への貢献」「循環型社会への貢献」「自然共生社会への貢献」「社会との協調」の4つの柱を中心に「環境管理の推進」を実施し、自然を守り緑豊かな環境づくりに取り組んでいます。

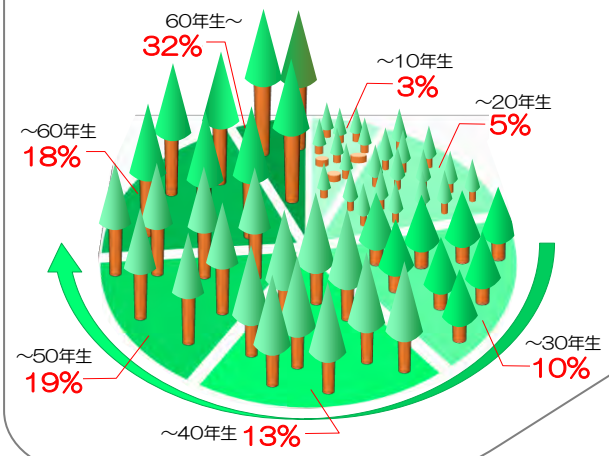
循環型社会への貢献

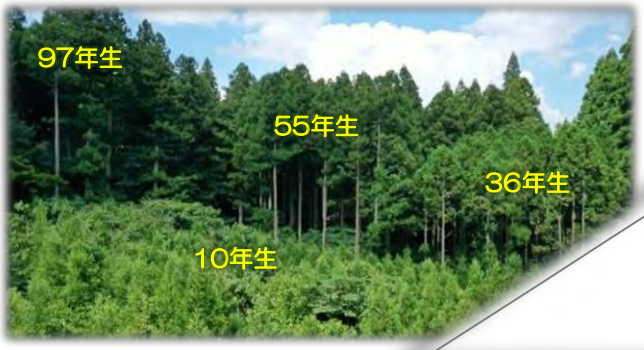
〈持続可能な森林経営〉

当社は、苗木生産から植栽･育成管理･伐採･加工･販売と一貫した森林経営を営んでいます。

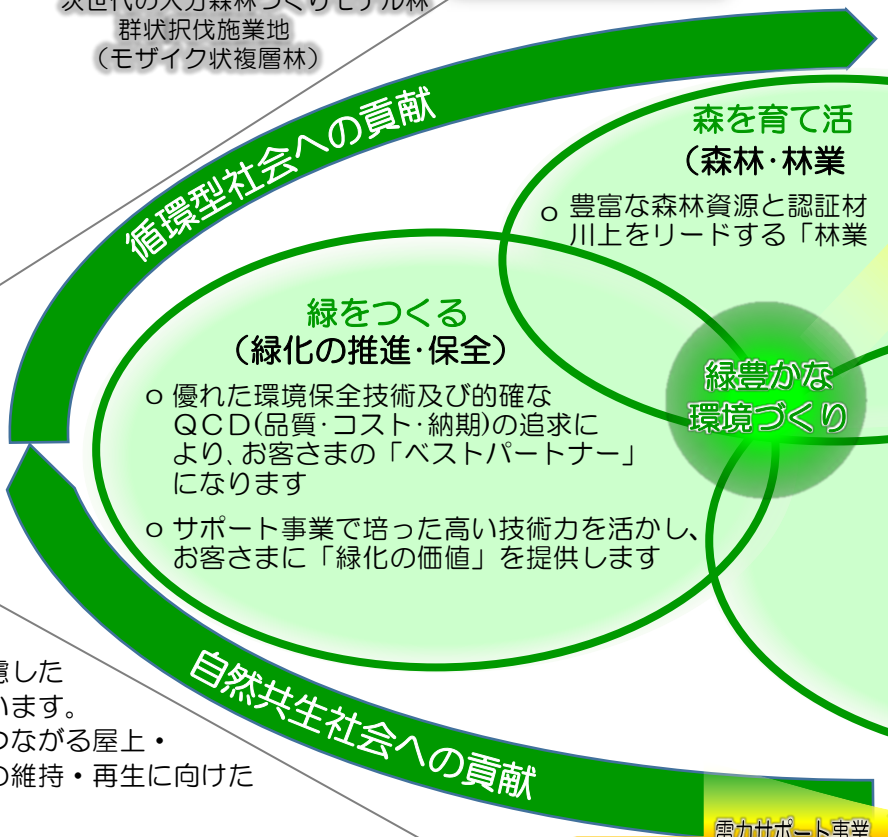
持続的な森林経営を見据え、計画的な資源循環に努めており、創業以来、安定的に木質資源を供給しています。(標準伐期：61年生以上)

九州電力社有林年生別本数構成





次世代の大分森林づくりモデル林
群状択伐施業地
（モザイク状複層林）



自然共生社会への貢献

〈環境緑地創出と環境保全対策〉

当社は、発電所・工場敷地・高速道路の緑化工事や公共の都市公園整備工事など環境や景観に配慮した緑地創出により、自然共生社会への貢献に努めています。

近年では、都市ヒートアイランド現象の緩和につながる屋上・壁面緑化や自然環境復元、里山の持つ多面的機能の維持・再生に向けた里山緑化やビオトープ設置にも注力しています。

都市緑化
（電気ビル共創館外構）

屋上緑地管理
（電気ビル共創館）

公園整備
（玄海町次世代エネルギーパーク）

成長分野への
資源投入

新たな価値の創造
（新規事業創出）

- 自社の経営資源・経営環境を活かし、未来洞察の観点からイノベーションを創発し、成長事業へ積極的にチャレンジします

かす
再生）
の強みを活かし、
事業体」となります

保有技術を活かした事業展開

環境を守る
（環境対策支援）

- グループのＣＳＲ経営（環境経営）に寄与します
- 公益的な森林保全や再生可能エネルギー利用に貢献します

低炭素社会への貢献

グループ外への事業拡大

社会との協調

の効率化・取組強化

盤強化

低炭素社会への貢献

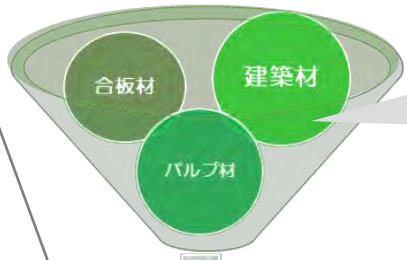
〈適正な森林管理によるCO2吸収〉

当社では、FSC®森林認証に基づく森林管理により、持続的な経営と環境への配慮との両立に努めています。

適正な間伐の実施などにより収穫量の拡大を図ることは、生長量が増えるため、森林の持つCO2吸収能力を最大限に発揮させることにもつながります。

- 九州電力社有林面積　：4,447ha（PayPayドーム630個相当）
- 2019年度生長量　：38,982㎥（人工林のみ）
- 2019年度CO2固定量：129.5万ｔ
（カーボンニュートラルへの寄与）

〈木材のカスケード利用によるCO2固定〉



端材・末木等は
バイオマス燃料として活用

2019年度木材生産量
↓
11,099㎥

木材はCO2
の貯金箱

次世代の大分森林づくりモデル林
ヒノキの長伐期施林（伐期:120～130年）

社会との協調

〈社有林での環境教育〉

当社は、九電みらい財団と協働し、次世代層を中心とした環境教育を展開しています。

講話で学んだ森林の役割や環境配慮の重要性をフィールドワークで実感することで、記憶に残る体験となるよう心掛けています。

森の教室

林業体験

〈公共施設での環境コミュニケーション活動〉

当社では、官公庁から受託管理する６つの公園・農園の運営において、自然観察会や収穫祭、里山ボランティアなど多彩な環境コミュニケーションイベントを開催し、地域との一体感醸成に努めています。

里山観察会

田植え体験

2019年度環境経営目標・実績・評価

環境負荷低減活動を一歩一歩積み上げてきた結果、「当たり前のことを当たり前と捉えず改善を図る」という意識が全社員へ浸透し、高い水準での取組みが継続されるようになりました。

	環境経営目標項目	2019年度 目標	実績	実績評価	※1 主な取組み内容（◦：目標未達原因）	取組評価	関連するSDGs
1 低炭素社会への貢献	二酸化炭素排出量 (t-CO2)	297 以下	289	○	• 車両の乗り合わせを実施 • 近場への移動は自転車を利用 • 日頃より節電に取組み、都度の声掛けを実施 • 始業前・昼休みの消灯、業務中のスポット照明で不要な電力消費を抑制 • 室温が冷房28℃、暖房19℃になるよう空調を設定 • 扇風機や加湿器をエアコンと併行利用	○	3 6 7 11 12 13 14 15 17
	購入電力のCO2排出係数	0.463※2					
	電力消費量 (MWh)	212 以下	190	◎			
	車両燃料消費率 (車両燃料使用量) (km/ℓ) (kℓ)	13.3 以上 (73.2)	13.6 (66.7)	○	• 夏場の気温上昇及び残暑により、車両エアコン使用頻度が増加 • タイヤ圧の点検の実施 • ふんわりアクセル等のエコドライブの徹底 • 燃費の良い車両を優先的に利用するよう呼びかけを実施	○	
	上水使用量 (㎥)	740 以下	848	×	• 洗い物時のこまめな止水 • ポットの余り水を掃除や植物への水遣りに活用 • 帰社時の蛇口チェックの実施 ◦ 乾燥木材の増産に伴う木材乾燥機使用頻度の増により上水使用量増	○	
2 循環型社会への貢献	一般廃棄物発生量（紙類以外） (kg)	1,250 以下	1,408	×	• 一般廃棄物の分別徹底によるリサイクル促進 • 古紙リサイクルの徹底 ◦ 事務所移転による大型廃棄物が発生	○	9 11 12 14 15
	産廃リサイクル率 (リサイクル量/発生量) (%) オフィス・工場	95.0 以上	99.8%	◎	• 産業廃棄物の分別徹底 • 産廃マニフェストの適切な運用及び適正処理確認の徹底 • 使用済蛍光管及び乾電池のリサイクルの実施	○	
	産廃リサイクル率 (リサイクル量/発生量) (%) 現場	95.0 以上	99.0%	○			
	間伐材有効利用率 (%)	55.0 以上	43.2%	×	• 未利用材の利用拡大に向け、販路拡大に努力 ◦ 山奥など、集材困難箇所が多かったため目標未達	○	
	事務用品グリーン購入率 (グリーン購入金額/総購入金額) (%)	95.0 以上	99.1%	○	• 電子カタログ購買システムによるグリーン購入の徹底 • 事務用品以外も極力環境ラベル認定品の購入を徹底	○	
3 自然共生社会への貢献	緑化工事受注件数 (件)	200 以上	227	◎	• 積極的な提案営業が受注実績に結びつき、緑豊かな社会に貢献	○	4 8 10 11 12 14 15 16 17
	生物多様性への取組み：希少種の保全活動				• コドラード内に生育する希少植物の個体数を調査 • 定点写真観測記録によりミヤマキリシマ保護のための伐採範囲を決定 • 希少種が生息しやすい環境(防火帯)を拡幅 • 希少種巡視活動を12回実施(21種を確認)	○	
	生物多様性への取組み：事業における環境リスクの低減				• 全ての外注施業において、施業前にチェックリストで生物多様性に配慮すべき事項を把握・確認 • 施業後も同チェックリストで配慮施策による影響低減状況を確認・記録 • 植生土のう、植生マットは特定外来植物を除いた「九州林産仕様」を使用 • 希少種であるコウヤマキをマッピング、位置図を自主作成し生育状況を記録	○	
	化学物質使用量の削減				• 周辺環境への影響を最小限に留めるとともに、代替物質の活用などにより、極力PRTR制度対象物質を抑制	○	
	環境上の事故及び緊急事態への準備・対応				• 環境上の緊急事態を想定した訓練の実施および訓練終了後の検証・改善　（緑化部2件・林業部1件）	○	
4 社会との協調	環境に関するコミュニケーションの推進				• 環境経営レポートを営業活動時や就職説明会などで配布(160部) • ホームページでのレポート公開	○	4 8 11 12 15 17
	地域における環境活動の推進				• 社内外の清掃活動、計24回に延べ69人の社員が参加 • 九電みらい財団と協働し環境教育計26回開催(延べ2,367人参加)	○	
5 環境管理の推進	環境マネジメントシステム（EMS）の自立運用				• 内部監査(運用業務支援)を9箇所で実施	○	3 5 8 10 12 13 14 15 16 17
	環境教育の実施及び環境情報の共有化				• 社外情報収集のため、九電グループ環境経営推進部会へ2回参加	○	
	環境関連法令順守の徹底				• 環境法令遵守状況に問題が無いことを確認	○	

※1　○：目標達成項目、◎：目標比で5%を超える達成項目
※2　2019年度九州電力公表値を使用

環境パフォーマンス

取組み成果共有化の観点から、環境負荷低減活動の結果をコストと物質量の両視点で整理しました。

2019年度は、環境保全のために1,458.5万円を投じ、環境コストは、基準年（2010年）比で、2,176.5万円の削減を実現しています。また、マテリアルバランスにおいては、廃棄物リサイクル率が97.0%に達し循環型社会へ大きく貢献しています。

■環境保全コスト

（千円）

分　類	主　な　内　容		コスト
事業エリア内コスト	公害防止	浄化槽メンテナンス費用・法定検査手数料、清掃費用他	427
	地球環境保全	省エネ空調設備リース料、ハイブリッド車導入に伴うリース料差額	4,508
	資源循環	一般廃棄物・産業廃棄物のリサイクル及び適正処分費用	4,514
管理活動コスト	社内外教育	環境関連社外講習費用、社内教育(業務支援)費用、環境関連図書費	353
	EMS構築・運用	EA21・FSC・COC審査費用、運用に係る人件費	3,839
研究開発コスト	生物多様性保全	希少植物の保全活動に係る人件費	60
社会活動コスト	地域貢献活動	ボランティア活動人件費	802
	情報発信	ホームページ運営費用、環境経営レポートの配布に係る印刷費用	83
合　計			14,585

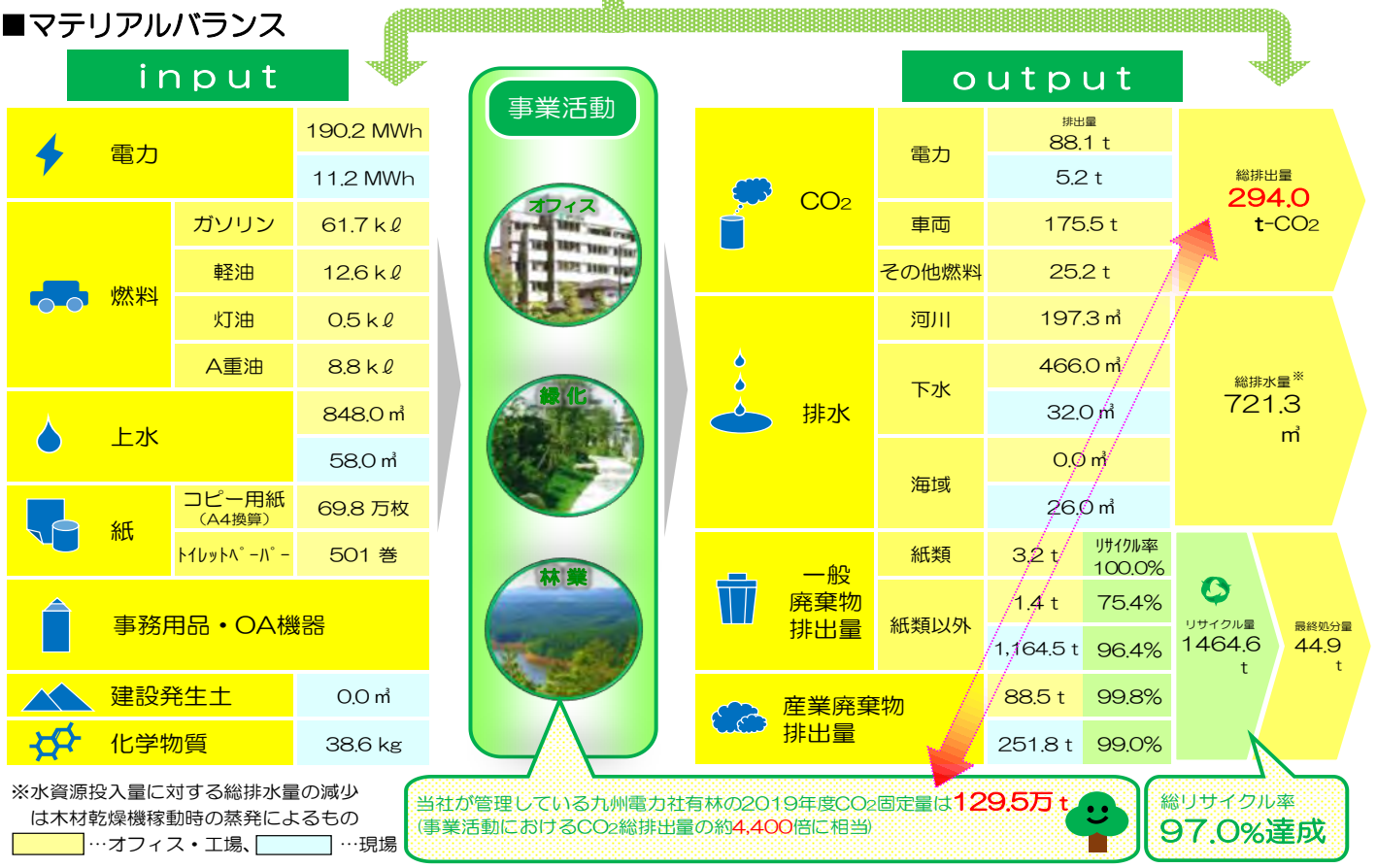
環境負荷削減量の推移（物質量と金額）

（千円）

分　類	物質量 2010年度	2017年度	2018年度	2019年度	削減量(2010年差)	金額 2010年度	2017年度	2018年度	2019年度	削減金額(2010年差)
電力	685.9	250.1	211.6	201.4	484.5 MWh	18,519	6,752	5,712	5,439	13,081
車両燃料	107.9	78.5	78.0	74.3	33.7 kℓ	15,946	11,716	11,584	11,042	4,904
その他燃料	22.7	3.2	4.8	9.3	13.4 kℓ	2,163	291	433	838	1,325
水道	1,535.2	862.5	789.0	906.0	629.2 ㎥	640	360	329	378	262
廃棄物処分	3.6	15.5	15.7	44.9	-41.2 t	1,499	255	528	240	1,259
廃棄物リサイクル	445.4	1,206.7	1,826.4	1,464.6	-1,019.1 t	5,051	2,904	9,346	4,274	777
小　計						43,819	22,278	27,933	22,212	21,607
廃棄物の売却収益	-					0	203	114	158	158
合　計						43,819	22,075	27,818	22,054	21,765

※上記金額の算定に際し、電気代・水道代については、本店の2019年度使用料の年間平均単価を使用、車両燃料(ガソリン・軽油)・その他燃料(灯油)については、資源エネルギー庁公表の2019年度九州地区平均単価を使用

■マテリアルバランス



※水資源投入量に対する総排水量の減少は木材乾燥機稼動時の蒸発によるもの

…オフィス・工場、…現場

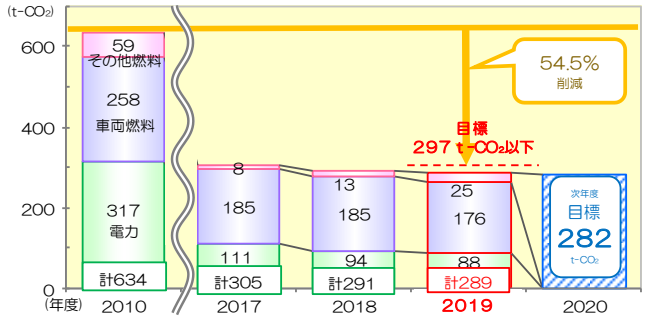
低炭素社会への貢献

二酸化炭素排出量

目標達成

電力・車両燃料の削減で重油の使用量増をカバー

空調利用の抑制、車両の乗合せ走行ルートの事前確認を継続します。

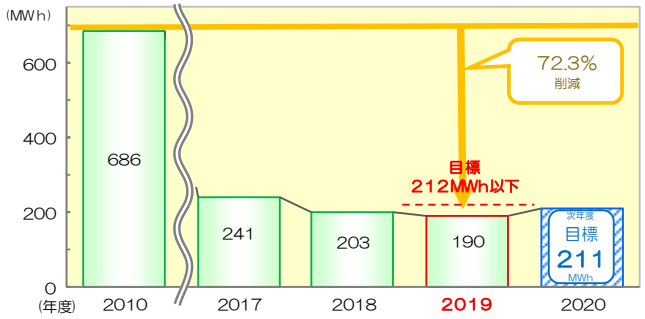


電力消費量

目標達成

外気を取り入れた空調利用の抑制で目標達成

不使用時のPC電源･電灯OFF、階段利用、空調適温設定を継続します。



■ タイルカーペットによる冷気の緩和

これまでの長崎営業所事務室の床は、コンクリートが剥き出しになっており、経年劣化により、亀裂が入ったり、タイルが剥がれていました。景観上よくない上に、通行時引っかかることも度々。なにより冬場は足元からしんしんと冷気が漂い、より寒さを感じていました。しかしこのタイルカーペットを貼ってからは、景観上の問題が解決しただけでなく、冬場の寒さが随分緩和されたと所員全員、体も心もホカホカです。

■ TV会議システムの活用

当社では、ＴＶ会議システムを導入しており、大分県由布市に所在する林業部と本店（福岡市）がホットラインでつながっています。このため、会議出席等での移動は大幅に減少しており、移動時の車両燃料が削減されたことで、CO_2排出量の抑制につながっています。

また、往復にかかる４～５時間の移動時間も削減され、大幅な業務効率化にも結び付いています。

2019年度は本店大会議室で開催したイノベーションスクールにおいてもＴＶ会議システムを利用し、積極的な参加に繋がっています。

本店と林業部でのTV会議の様子

■ デスクトップ型パソコンからノート型パソコンへ

2020年2月、デスクトップ型パソコンからノートパソコンへ入れ替えを行いました。ノートパソコンはデスクトップ型パソコンより、消費電力が少なく、低コストなので、省エネを促進できました。

またコロナウイルスによる在宅勤務でのテレワーク等、今後必要となる働き方改革にも適合できる環境が整いました。

ノートパソコンを使う染川社員

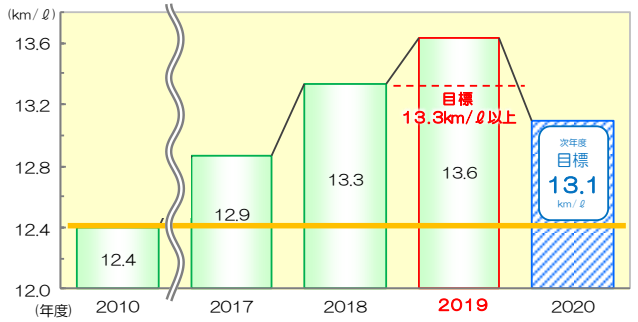
消費電力：経済産業省　資源エネルギー庁より
電気代：2019年度の本店年間平均単価(29.49円/kWh)
年間：年間営業日(20日×12か月)

車両燃料消費率

目標達成

低燃費車への切替とエコドライブの徹底で目標達成

今後もハードとソフトの両面から燃費向上を図ります。

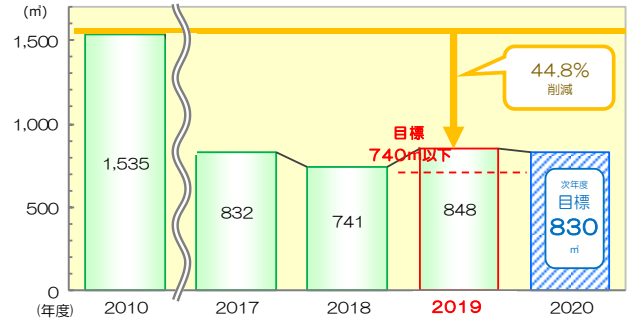


上水使用量

目標未達

木材乾燥機の稼働率増加で目標未達…

オフィスでの日常的な節水は定着、今後も節水シール等での喚起を継続



■ ハイブリッド車両への切替え

当社では、「車両更新時における低公害車への計画的切替え」を環境経営計画に掲げており、2019年度では、普通乗用車17台のうち、6台がハイブリッド車です。

計画的な切替えにより、ガソリン使用量・CO_2排出量・ガソリン費用の削減など車両単体での燃費改善効果はもちろんのこと、ハイブリット車の利用促進活動を合わせて展開し、全車両の平均燃費改善にも取り組んでいます。

〈ハイブリット車導入効果の分析〉

項目	その他普通乗用車	ハイブリッド車
平均燃料 （km/ℓ）	14.78	20.54
ガソリン使用 （ℓ）	1,154.5	830.7
CO_2排出量 （kg-CO_2）	2,678.3	1,927.2
ガソリン費用 （円）	175,707	126,434

※2019年度1台あたりの普通乗用車年間平均走行量17,062.76kmを使用し算出

■ バイオマス発電所への納材

当社は、森林保全と再生可能エネルギー利用への貢献に取り組んでおり、2014年度から、バイオマス発電用燃料として、九電社有林材の供給を実施しています。また、2020年度からは、九電グループのふくおか木質バイオマス発電所の営業運転に伴い、燃料供給を開始しました。

昨今の大型台風や豪雨によって増加傾向にある罹災した被害木の積極活用にも努めており、カーボンニュートラルによる低炭素社会への貢献とともに、林地残材（林地に残置された間伐材等）抑制による森林の公益的機能（治山機能）の向上にも取り組んでいます。

被害木

商品価値が低く、搬出コストを要する低質材

低質材をチップ化することでバイオマス発電に有効利用

やってみよう！緑のカーテン！（曜白大輪朝顔）　西南杜の湖畔公園「杜もり日記」

5/27 (14日目)

5月13日に緑のカーテンを始めて14日目。成長が早く、網につるが絡み始めています。今年はどんな花をつけてくれるでしょうか。

6/13 (31日目)

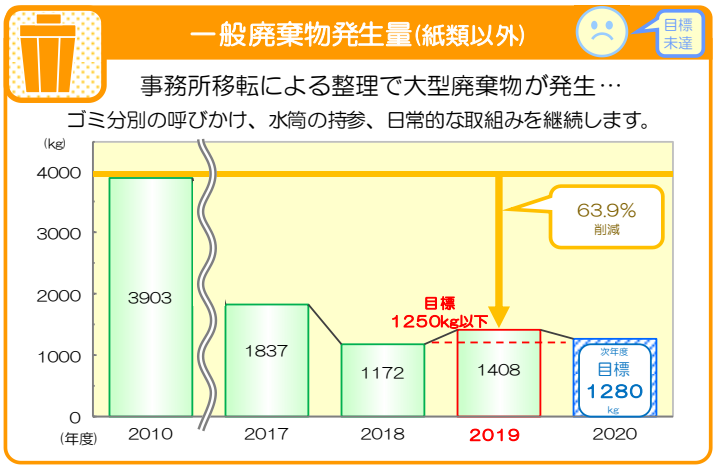
日に日に大きくなり事務所の中からでもみえるようになってきました。ボールペンと同じくらい成長しています。

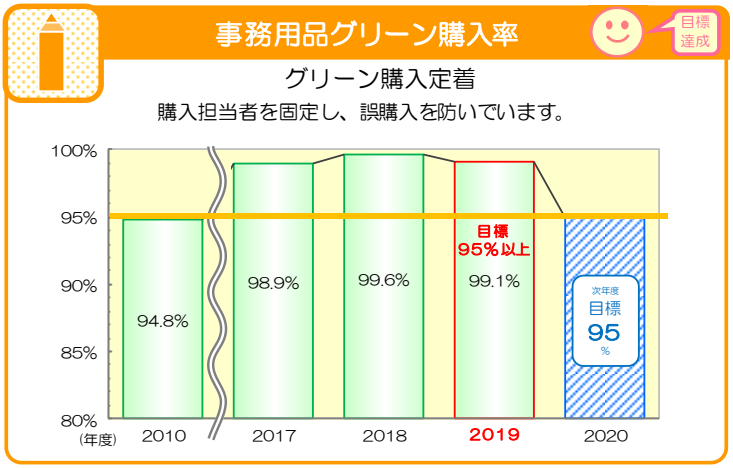
6/20 (38日目)

葉っぱが高くまで生い茂り大分カーテンらしくなってきました。去年と比べ、遅い開花とまりましたが、朝顔が咲きました！

7/11(59日目)

葉が屋上まで到達し、紫や青など花の種類も増えました。太陽の光をガードしてくれるようになり、事務所内も快適になりました。



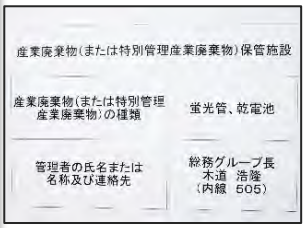


■ 一般廃棄物の分別

廃棄物のリサイクル率向上と発生量抑制に向け、各事業所が所在する市町村の基準に沿った分別の徹底を環境経営計画に掲げ、取組みを行っています。

特に紙類については、グループ内のリサイクル会社と契約し、機密文書を含む古紙リサイクル100%の取組みが定着しており、社内情報システムの活用や裏面利用とともに、紙類の分別徹底を図ることが、廃棄物減容化の鍵となっています。

機密文書廃棄専用青袋



産廃保管場所には管理状況を掲示しています。

■ 間伐材の有効活用

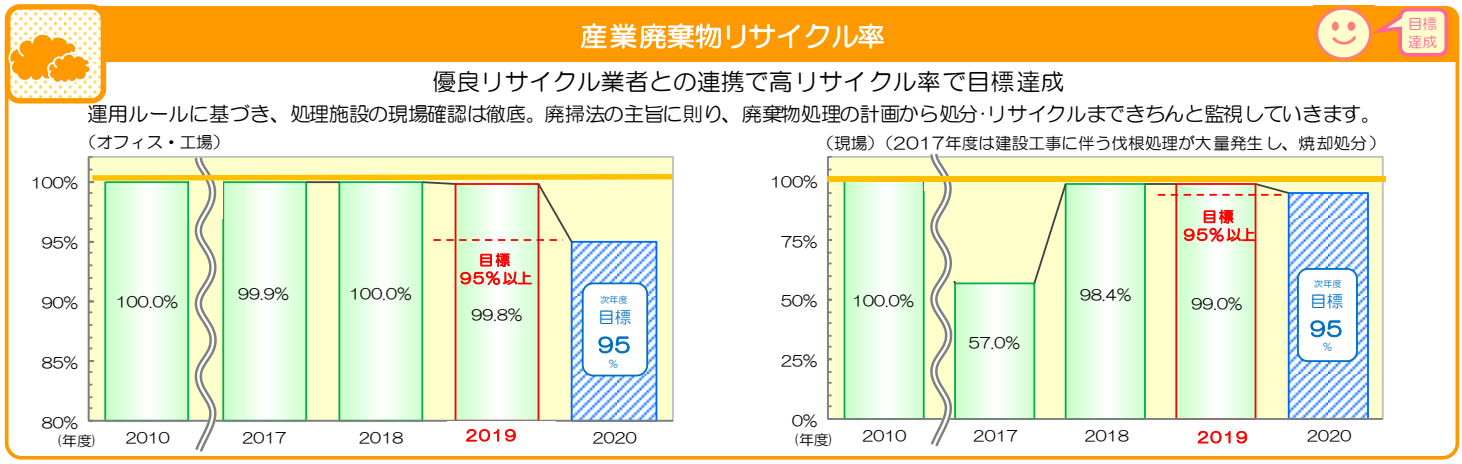
当社は、昨今の豪雨時の川の氾濫の要因として社会問題化している林地残材の抑制と九州電力社有林の持つCO2吸収・固定機能の最大化に向け、社有林管理の中で発生する間伐材の有効利用を環境経営目標に掲げ、活用促進に努めています。

商品価値が低いうえ搬出コストを要する低質材（小径木や風・雪害木等）の有効活用に向け、バイオマス発電燃料やパルプ材、集成材等への販路拡大に取り組んでいます。

北部九州豪雨で流出した立木や林地残材

〈オール電化の推進〉

九州電力社有林のFSC®認証材を利用し、クッキングヒーターに木製の架台を使用することにより、IH調理台の安全性のアピールに寄与することができました。無垢材を使用しているため、温度、湿度、乾燥によって、生じる変形の対処に苦労しましたが、試行錯誤しながら、製品改良に努めました。



■ 廃棄物の再資源化

指定管理者として管理運営している各施設においては、４R（リフューズ・リデュース・リユース・リサイクル）に配慮した取組みのひとつとして、ゴミの再資源化に努めています。

日々の緑地管理業務で発生する草本類や竹類、農園から出る残渣などの再利用により、ゼロエミッションを目指しています。

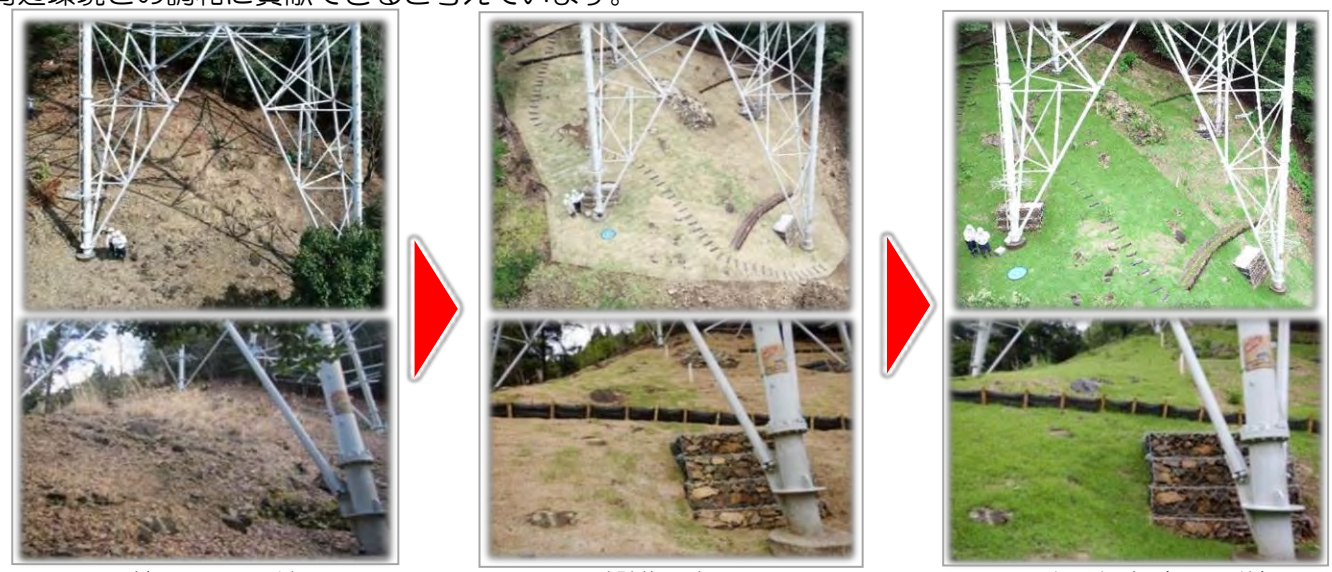
農園から出る残渣を集積・発酵させ、堆肥化を行っています。出来上がった堆肥を、園内の畑などに使用しています。また、竹林伐採ボランティアで発生した竹を花壇や柵として再利用しています。

■ 鉄塔敷地保全対策における新たな張芝工の導入（試験施工）

電力送電線の鉄塔敷地保全対策の目的として、大きく３点①鉄塔敷地の恒久的安定、②周辺環境との調和、③地域との共生 があげられます。

一般的には山間部の鉄塔敷地保全については、鉄塔工事のために人工的に改変された敷地を安全上可能な限り植生による緑化工事で復旧し、経年により自然植生を回復していくことが敷地保全の基本であり、環境や景観上も最も好ましい方法です。しかし、近年は梅雨時期等に集中豪雨の発生が多くなる傾向にあり、雨により土砂が流出し、敷地が裸地になるケースが発生しています。そこで今回、従来の張芝工に比べ、雨水侵食に対する防止能力の高い工法の検討を行い、現在、導入に向けた試験施工を実施しています。

試験施工にあたっては、防潮提や河川護岸に選定されている公共事業の実績を基に、従来の野芝に比べ比較的土壌等を選ばず、自然環境の厳しい条件下でのストレス等に対応しているものや、地下茎の層が厚い・芝密度が高いものを選定しており、現時点では良好な結果が得られていることから、鉄塔敷地の安定確保と周辺環境との調和に貢献できると考えています。



着　　工　　前　　試験施工完了　　経過観察（3カ月後）

当社は、多様な生物生育環境の保全と事業活動がもたらす生態系への影響低減に向け、効果的な生態系の維持・回復対策の手法や手順、実施スケジュール等を「生物多様性保全ガイドライン」として取りまとめ、活動の実施とともに、データの収集･分析、改善策の検討・提言にも取り組んでいます。

■ 希少種の保全活動

巡視活動で確認された希少植物（2019年度）

- アギナシ
- クサレダマ
- ケナガシロワレモコウ
- サギソウ
- サワギキョウ
- シラヒゲソウ
- タチカモメヅル
- マルバカモメヅル
- チョウセンスイラン
- トキソウ
- ノハナショウブ
- ヒメシロネ
- ヒメユリ
- ホザキノミミカキグサ
- ミズオトギリ
- ミズチドリ
- ミタケスゲ
- コバノトンボソウ

〈巡視活動〉

九州電力社有林内に生息する希少植物の定期的な巡視活動を実施しています。

コタヌキモ

サワギキョウ

トキソウ

ヒメユリ

ミズオトギリ

ミズチドリ

〈定点写真観測〉

くじゅう地域を代表する希少種・ミヤマキリシマの群生地等において、定点写真撮影による植生状況等の推移を観測しています。2015年度に、シャクガの幼虫による花芽や葉の食害が発生し、開花量が減少していましたが、保護活動の成果もあり翌年以降回復しています。

2019年度も引き続き、美しい花を咲かせ、多くの登山者で賑わいを見せました。

2015年度

2017年度

2019年度

〈ミヤマキリシマ保護活動への参画〉

平治岳に群生するミヤマキリシマは、近年ノリウツギなどの他樹種に被圧され減少傾向にあるため、九電みらい財団が主催する他樹種の伐採による保護活動が行われています。

当社は、この活動に毎年ボランティアスタッフとして参加し、参加者への指導を行っています。

ノリウツギの伐採

〈活動の効果の把握とフィードバック〉

2017年度から九電みらい財団より「平治岳ミヤマキリシマ植生保護に係る支障木試験伐採委託事業」を受託し、試験地の設置とその後の経過観察を行っています。平治岳の北側斜面では、ミヤマキリシマが残存していますが、ノリウツギに被圧され衰退しているため、環境省の許可を得て試験的にコドラート（区画）を設置し、伐採による影響を確認しているものです。

2017年度

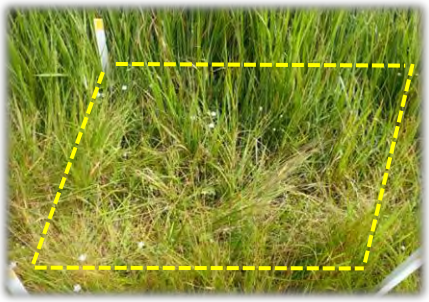
ノリウツギ伐採作業完了

2019年度

〈定点植生調査〉

湿地帯の希少植物群生地においては、定点写真観測とともに、1m×1mのコドラード(区画)法による植生調査を行い、その効果の把握に努めています。調査対象植物の中でも、シラヒゲソウとサギソウは調査を開始した2015年から継続して増加傾向にあり、2019年度は区画内にシラヒゲソウを40株、サギソウを43株確認しています。

また、希少植物が周辺の植物から覆われて減少することを防止するために、毎年秋に草刈りを実施しています。


区画内のシラヒゲソウ

シラヒゲソウ

サギソウ

〈九州電力社有林内希少植物巡視〉

九州電力社有林で担当者の山林巡視や協力会社の作業時などに希少植物を発見した場合、植物を保全しています。2019年度は、協力会社よりエビネランの群生地発見の連絡を受け、作業時に踏み荒されないように群生箇所を区画しました。

九州電力社有林内で発見されたエビネラン群生地の拡大写真

エビネラン群生箇所（計３か所）を区画

■ 事業活動が生態系に及ぼす影響の低減

〈チェックリストを活用した生物多様性への配慮・対策の実施〉

当社では、従来から森林管理事業での環境アセスメントを実施してきましたが、昨今、アセスメントレベルの標準化に向けた教育の強化にも取り組んでいます。希少種保全に向けたリストを作成すると共に、事業活動による生態系への影響低減の取組みに関する視点を共有するため、取組みの全体像を明確にし、現場教育に織り込んでいます。

林業部 岩松社員

これからも希少種の保全活動に全力をつくしたいと思います！

■ 生物多様性に配慮した施設運営（かなたけの里公園）

当社が、2014年度から指定管理者施設の管理業務を開始した「かなたけの里公園」では「里」をテーマに、人々の営みと農業との繋がりを尊重する“農ある暮らし”と共に多様な植物や生き物と人とが共生できる環境づくりに取り組んでいます。特に「生物多様性への取組み」については、各分野の専門家などを運営スタッフとして採用し、次世代層への教育活動や多様性保全環境づくりなどを、管理運営の中で提案・実施しています。

〈地域との共働「運営理事会の設置」〉

当園では、大学教授やフィールドワークの専門家等の有識者や地元自治協議会の方々を交えた「かなたけの里公園運営理事会」を設置し、「ともに育む『里の環』」をキーワードにメンバーからの様々な意見・提案を取り入れながら、地域との共働による施設運営・利用者へのサービス向上に取り組んでいます。

運営理事会の様子

〈環境教育〉

座学での説明

フィールドワークの体験

田植え体験

〈生物多様性に配慮した施工の提案〉

当園では、さまざまな生態系配慮型の管理手法を提案し、採用されています。

当社は今後も、運営テーマとも合致する「生物多様性への取組み」と「地域との協働」をキーワードに改善提案を継続し、地域の環境保全とお客さまへのサービス向上を目指していきます。

除草剤は使用せず環境負荷の少ない緑地管理を行っています。
昆虫等生物の健全な生育環境を考慮した草刈高の設定（刈高10㎝）や、ホタル・アカガエル等希少生物生息域における産卵・孵化・成長期を避けた草刈実施・湿地の水管理など、生態系の保全へ配慮を行っております。

公園内に繁茂している竹林については、伐採による適切な密度管理を行い拡大を防いでいます。伐採した竹材は、公園イベント、地域行事での材料として、竹のおもちゃ（竹カッポ・竹トンボ・竹笛）などに活用しています。

生物多様性を専門とするかなたけの里運営スタッフが作成した、チョークアートのような「生物多様性展示図」

〈生きもの調査〉

当園では、日本野鳥の会福岡支部と協働し、野鳥を中心としたモニタリング調査を実施しています。

開花植物や動物、昆虫などの調査もあわせて実施しており、2019年度は、12回の調査で、計71種の野鳥、164種の開花植物、24種の陸貝類を確認しました。

また、公園内の湿地や水路に、福岡県の絶滅危惧種Ⅱ類に指定されているニホンアカガエルの産卵が確認されており、卵塊の調査と保全活動を実施しています。

2019年度は、88の卵塊を確認しています。

年度	2016	2017	2018	2019
卵塊数	127個	349個	152個	**88個**

イロハモミジ

コハクオナジマイマイ

ニホンアカガエルの卵塊調査

〈里の生きものたち〉

当園では、各種調査で確認された生きものを積極的に公開し、田畑や森を舞台に、人々の営みの中で植物や生きものが共生する環境を育んできた「里」の知恵や恵みを伝えています。少し変わった、面白い生き物たちをかなたけの里のホームページでみることができます。日常に潜む足元の世界を覗いてみてください。

アカハライモリ

ナナホシテントウ
（羽化したて）

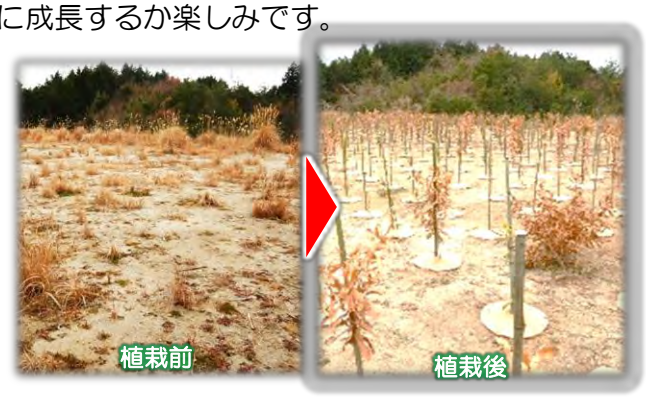
後から赤色の僕に変身するよ！！

かなたけの里公園ホームページ

■ 植物の移植活動

〈荒廃林再生事業〉

電力送電線の北九州幹線新設並びに関連工事で伐採した工事用地のうち保安林及び荒廃森林再生事業区に、植栽を行いました。あらかし、くぬぎ、こなら、すだじい、やまざくらを植えました。どのように成長するか楽しみです。


植栽前
植栽後

〈九州電力松浦発電所構内　緑の広場設備工事〉

既存の広場での改修工事でしたが、既設コンクリート箇所に張芝植栽工を施し、景観を整えました。また、地域貢献の為、芋畑を作りました。

■ 地域社会との協調

〈3社合同清掃活動〉

2020年2月に福岡市南区に所在する九電グループ会社(九州高圧コンクリート工業株式会社、九電テクノシステムズ株式会社)と合同で、南区塩原中央公園の清掃活動を実施しました。当社からは、社長をはじめ計10名が参加しました。

(左)九電テクノシステムズ株式会社のみなさん　(1列目中央)中島社長 植村社員 染川社員 (2列目)木道グループ長 岡村取締役 (3列目)三輪部長 徳留グループ長 荒瀬社員 中尾社員 (撮影：黒木副長)　(右)九州高圧コンクリート工業株式会社のみなさん

〈清掃活動の実施・参加〉

地域貢献活動の一環として、事務所周辺並びに当社が指定管理者として運営する公共施設周辺の清掃活動や社外主催の清掃活動へ積極的に参加しています。（2019年度は、計24回、延べ69名が参加）

林業部 右田グループ長

鹿児島営業所 井上所長
小柳社員・宮本社員・岡部社員

■ 環境情報の積極的な公開

〈表彰制度への積極的な応募と事例発表〉

2019年度の環境経営レポートでは、「第23回環境コミュニケーション大賞」において優秀賞を受賞、「環境活動レポート大賞・九州」においては、選考委員会特別賞を受賞しました。当社が本業に沿った優れた環境保全活動を展開していることや、レポートが活動をわかりやすく紹介し、全体として読みやすい構成であったこと、会社案内としても活用できる点が評価されました。

今後もレポートを重要なコミュニケーションツールとして活用し、当社の取り組みの積極的な情報発信に努めてまいります。

賞状を受取る岡村取締役

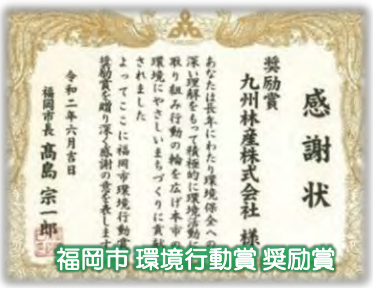
賞状を受取る総務部徳留グループ長

〈福岡県主催「省エネセミナー」での取組事例発表と福岡市主催「環境行動賞」における受賞〉

福岡県では、事業所における地球温暖化防止の取組を応援するため、省エネルギー・省資源に努める「エコ事業所」を募集・登録しています。2018年度に、「その他地球にやさしい活動部門」最優秀賞を受賞したご縁で、2019年度は福岡県主催の省エネセミナーで取組事例の紹介を行い、環境経営の必要性やEA21導入効果を紹介するとともに、九電グループとしての取組みを多くの方々に知っていただく良い機会にもなりました。

また、主体的・継続的な環境活動が地域の環境保全に貢献していると認められ、福岡市主催の「環境行動賞」奨励賞も受賞しました。

引続き、当社は、積極的な情報発信とＣＳＲ活動の充実に取り組んでまいります。



取組事例を紹介する総務部徳留グループ長

〈国有林間伐・再造林推進コンクールにおける受賞〉

国有林の森林整備事業受託業務では、林野庁の表彰制度である「国有林間伐・再造林推進コンクール」の九州森林管理局長表彰・搬出間伐部門において、優秀賞を受賞しました。当社の新たな技術の導入や効率的な作業システムの構築が評価されました。因みに賞状は、長寿の銘木「屋久杉」で製作された貴重なもので、社員一人ひとりの尽力が報われました。

トランシーバーを活用した効率的な作業者間コミュニケーションシステムを構築し、作業時間短縮と安全確保に繋げました。また、効率的な高性能林業機械を配置し、作業路作設の効率化と集材搬出作業の軽減に努めました。

〈貸店舗施設「もくあみの杜」における受賞〉

湯布院の観光名所である金鱗湖のそばにある、当社の集合型貸し店舗施設「もくあみの杜」が「ウッドデザイン賞」のソーシャルデザイン部門に入賞し、さらに「おおいた木の良さを生かした建築賞2019」において新築部門で特別賞を受賞しました。地域文化とのつながりとシンボリックな意匠を両立させ、国産材の良さを伝えつつ、利用者の利便性にも配慮されている点が評価されました。

もくあみの杜（大分県由布市）

■ 事業活動を通した地域社会との協調

〈保安林の整備業務〉

当社は、福岡県宗像市鐘崎外地区で保安林の整備業務を受託しました。クロマツの植栽及び海風から植物を守る防風工の設置を行いました。防風工には木材や竹材を使用し、環境との調和に配慮しました。

クロマツの植栽と、環境と調和した防風工

〈台風17号・豪雨での災害復旧工事〉

2019年7月に、長崎県で発生した豪雨による災害（法面崩壊）について、即応しました。

また、9月に九州北部を中心に大きな被害をもたらした台風17号により、九州電力苓北発電所構内でも倒木などの災害が発生し、当社は、災害復旧工事に社員を派遣し、障害物除去作業に携わりました。

豪雨による法面崩壊（着工前）

仮復旧竣工

台風17号災害状況（着工前）

復旧作業

災害復旧後

社会との協調（環境教育関連）

環境活動は、意識が高い一部の企業や官公庁・特定の限られた人々だけで取り組んでも、限定的な活動となり、大きな効果を生み出すことが難しくなります。

当社では、九州電力社有林の管理や官公庁所管の公園・農園の指定管理者業務の中で、地域の方々や地場企業、教育関係者、自治体の方々との協働による環境教育に取り組んでおり、多くの皆さまとの体験を通した環境コミュニケーションを展開しています。

■ くじゅう九電の森における環境教育

〈学んだことを体験し理解を深める〉

当社は、九電みらい財団とともに、九州電力社有林を舞台とする環境教育に取り組んでいます。

実施にあたっては、「自然の中で楽しみながら学ぶ」をテーマに講話で学んだ知識を体験し、実感することで、参加者の深い理解を促すよう努めています。

具体的には、地球温暖化の現状や適正に管理された森林が持つ水源涵養機能、CO_2抑制効果の講話を行った後、林業体験や森林観察等のフィールドワークを組み合わせたプログラムを実施しており、アンケート結果でも高評価をいただいています。

2019年度は、計26回開催し、2,367名の方々にご参加いただきました。

〈一般財団法人九電みらい財団〉

九電みらい財団では、2016年5月の設立以来、九州の豊かな自然環境の保全活動や環境教育活動、次世代育成支援活動を通じて、九州地域に広く貢献することを目的とした事業を展開しています。

当社は同財団と協働し、九州電力社有林を舞台に、林業体験や環境諸活動へのサポートを通じ、子どもたちの「自然を大切にする心」を育んでまいります。

九電みらい財団ＨＰより http://www.kyuden-mirai.or.jp/

■ 地元工務店との協働による森林・林業体験学習

当社では、2013年度から大分県の工務店連合体「木繋会（きづかい）（県の林業普及員の働きかけで結成された民間団体）」と協働で、地域材の地産地消に向けた森林・林業の体験学習を実施しています。

木が伐られ、製材された後、家が出来る（小さな家をつくり、棟上まで体験）までの工程を学び、林業という仕事や森林の役割、木材の有効利用がもたらす環境効果の理解促進を図っています。

座学で学んだことを現場で体験し、その効果について「なるほど」と納得することが、深い理解をもたらします。

木が伐られ、製材された後、家ができるまでの工程を学びます。

棟上まで体験したら、最後はモチ撒き　この時ばかりは撒く体験より拾うほうに人気が集まるようです。

■ 九州電力社有林100周年記念事業

当社は、沿革(P.2)で述べた通り、現在の九州電力㈱社有林の管理を開始して、2019年に100周年を迎えました。これを記念し、九州電力㈱主催により地元の皆様の長年にわたる同社事業へのご協力に対する感謝を込め、記念事業が実施されました。記念式典では、九州電力の長(おさ)常務執行役員が、地元の皆様への謝意を表し、100周年記念事業の内容紹介とともに、社有林の意義と役割についてご挨拶されました。

〈「きゅうでんプレイフォレストinくじゅう九電の森」の開催〉

記念式典の開催に併せて、記念イベント「きゅうでんプレイフォレストinくじゅう九電の森」が開催されました。「きゅうでんプレイフォレスト」は九州の豊かな森を未来まで残していくことを願い、次世代向け体験環境学習型イベントとして2016年度から九州各地の森林公園等で展開されています。今回は社有林育成100周年を記念して、初めて「くじゅう九電の森」で開催されました。

モニュメントを囲んだ記念写真

その際、除幕された「記念モニュメント」は、社有林の間伐材を使用し、地元の由布市と九重町の約140名の小学生が、木材を加工し、各々が森や自然への思いを木片に書き込み制作しました。

〈賀茂別雷(かもわけいかづち)神社（通称：上賀茂神社/京都市)への社有林木材の奉納〉

記念事業の一環として、京都で最も古い神社のひとつである賀茂別雷神社の鳥居の建替え木材として、九重町の社有林から樹齢100年近い直径70センチを超えるヒノキの大木を選定・伐採し、2020年3月に同神社へ奉納しました。賀茂別雷神社は「電気を司る電気事業の守護神」としても信仰され、九州電力社有林の木材が選ばれたことは電気事業との深い縁を感じさせられます。

また新元号「令和」にゆかりのある坂本八幡宮(福岡県太宰府市)に社有林材で作られた木製ベンチを提供しました。

神事の様子

社会との協調（指定管理者施設における取組み）

2003年、指定管理者制度の導入により、公共団体に限られていた公の施設の管理が、民間事業者でも可能になりました。

当社では、2008年から公営の公園・農園の指定管理者業務に取り組んでおり、2020年3月末時点で、福岡県や福岡市、北九州市から6つの公園・農園の指定管理者に指定され、“協働”をテーマに地域に根付いた公園の管理運営を行っています。

各施設では、体験学習やボランティア活動、収穫祭やスポーツ大会の共催による地域振興など、様々なイベントを開催し、学びや遊び、健康促進の場の形成に「緑」を通じて取り組んでいます。

■ 当社が管理運営する６つの施設

秋の収穫祭

イチゴ収穫

玉ねぎ・ジャガイモ収穫

しめ縄・門松教室

タケノコ収穫体験

米づくり体験

ブドウ収穫

花壇づくり

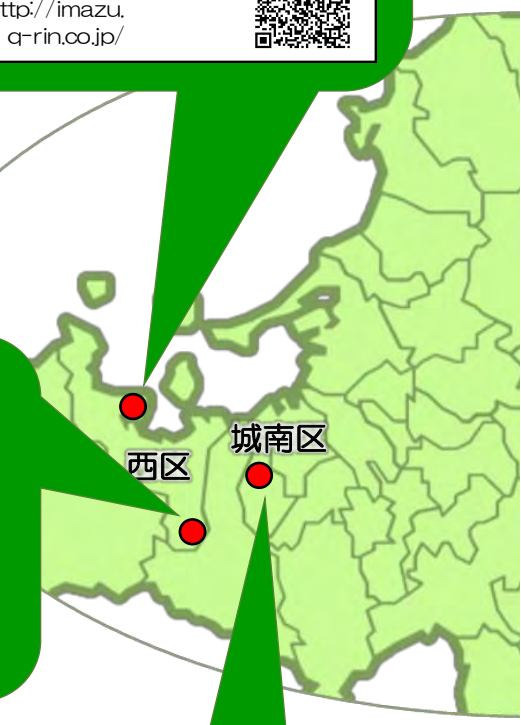
花市場　開催

今津リフレッシュ農園

場所	福岡市西区今津5685
形態	農園型公園(福岡市)
面積	7.00ha
施設	休憩ハウス付き農園、集合農園、棚式農園、芝生広場、いちご園、研修室
電話	092-806-2565
URL	http://imazu.q-rin.co.jp/

かなたけの里公園(2社JV)

場所	福岡市西区大字金武字の菅1367
形態	農村型公園(福岡市)
面積	12.70ha
施設	田、畑、貸し農園、ブドウ園、ミカン畑、クリ園、屋外炊事棟、BBQスペース
電話	092-811-5118
URL	http://kanatakenosato.jp/



西南杜の湖畔公園

場所	福岡市城南区七隈6丁目 外
形態	運動公園(福岡市)
面積	15.30ha
施設	軟式野球場、テニス場、球技場、多目的広場、芝生広場、樹林・竹林
電話	092-863-7929
URL	http://seinanmori.q-rin.co.jp/

北九州文化記念公園

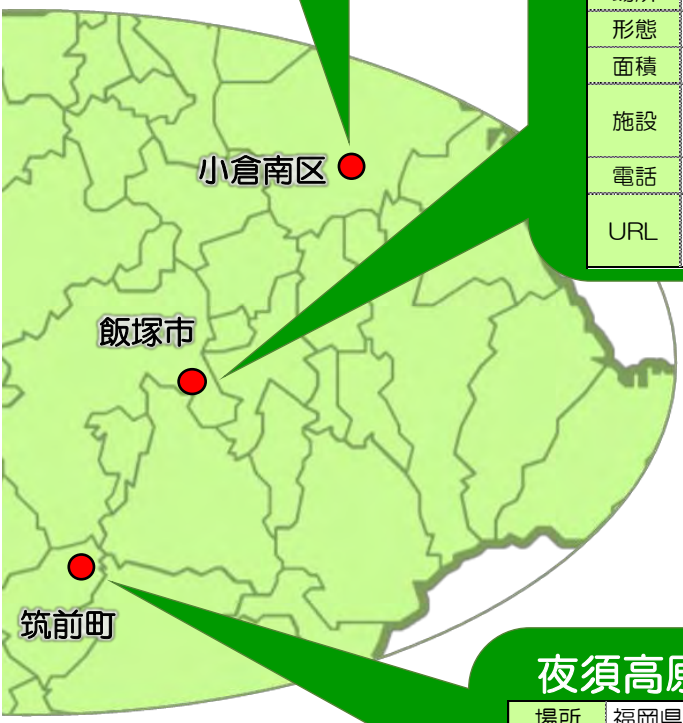
場所	北九州市小倉南区田原5-1
形態	運動公園(北九州市)
面積	11.5ha
施設	総合運動場、庭球場、文化記念プール、バランススクーターコース、スポーツ教室、会議室、和室、調理室
電話	093-473-9230
URL	https://bunkakinen.q-rin.co.jp/

花市場 開催

餅つき体験

清掃ボランティア

フラワーアレンジメント



県営筑豊緑地(4社JV)

場所	福岡県飯塚市仁保8-25
形態	運動公園(福岡県)
面積	51.00ha
施設	野球場(ナイター設備有)、テニスコート(13面)、健康運動広場、野外ステージ、プール
電話	0948-82-1023
URL	http://chikuhou-ryokuchi.jp/

水辺の広場

自然観察会

木工教室

夜須高原記念の森公園

場所	福岡県朝倉郡筑前町櫛木3-6
形態	森林公園(福岡県)
面積	22.70ha
施設	芝生広場、管理センター、巨大遊具、緑の迷路、噴水、渓流園、
電話	0946-42-0590
URL	http://yasukogen .q-rin.co.jp/

木工教室

スケッチイベント

餅つき体験

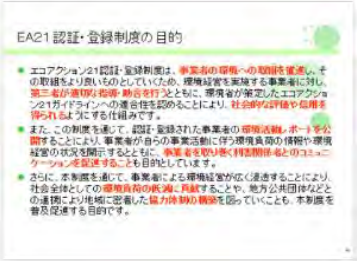
コンテナガーデンづくり

■ EMSレベル向上に向けた社内環境教育の展開

〈内部監査（運用業務支援）の実施〉

環境活動における運用状況確認のため、事務局が各所へ出向き、チェックリストを用いた内部監査を実施しています。運用上の業務支援も合わせて実施し、法改正情報の周知や環境責任者や担当者の異動があった箇所への教育等を行なっています。

また必要に応じ、社内会議等でも環境活動における情報提供やレポートの概要説明等を実施しています。



〈EA21更新審査〉

EA21では、毎年の更新審査または中間審査が義務付けられており、当社ＥＭＳレベルの定着状況を第三者により審査されています。

審査では、経営との一体化に向け、様々なアドバイスをいただいており、当社の中期経営計画にも反映させています。

松岡審査員に対応する
林業部 武石グループ長

審査員に対応する
増山所長・大内田社員

〈九林イノベーションスクールの開催〉

当社では、環境保全に関わる政策動向や環境保全技術を学び、効果的な業務改善活動を展開するため、定期的に社内スクールを開催しています。2019年度は、新型コロナウイルスの影響もあり、1月以降の開催はできませんでしたが、「当社事業とCSR（SDGｓ）の繋がり」などをテーマに、2回開催しました。

スクールでは、有識者による講演とワークショップを組み合わせ、社員の当事者意識醸成とコミュニケーション強化を図っています。

2019年度のイノベーションスクール開催テーマ

区分	開催日	内容（上段：スクールテーマ、下段：講師）
第1回 緑化部分科会	4/24 （14名）	今後のドローン活用の可能性について
		社内講師/㈱水上洋行 山本次長/㈱ｉＺＭＡ 渕上氏
第2回 全体会	12/9 （30名）	当社事業とCSR（SDGｓ）の繋がり
		九州電力㈱ビジネスソリューション統括本部矢野氏、二宮氏

発表を行う緑化部 加藤社員

〈環境上の緊急時対応訓練の実施〉

環境事故の未然防止の観点から、緊急事態を想定した訓練を実施しています。「災害発生頻度の高さ」と「災害発生時の影響度の大きさ」の視点から、工期が長い大型物件や発電所内の現場をサンプリングし、緊急事態の想定に基づく訓練の実施、訓練内容の有効性検証を行い、必要に応じ改善を図っています。

■ 主な環境関連法規の遵守状況

当社事業活動に関する環境関連法規の遵守状況を確認した結果、過去3年間違反はありませんでした。また、関係機関などからの違反などの指摘や利害関係者からの訴訟も過去3年間ありませんでした。

全社に共通するもの

- 生物多様性基本法
  生物多様性への影響把握・配慮・低減・持続可能な利用
- 建設物省エネ法
- 地球温暖化対策の推進に関する法律
- グリーン購入法
- 循環型社会形成推進基本法
  廃棄物発生抑制の措置
- フロン排出抑制法
- 建設リサイクル法
- 浄化槽法
- 廃棄物処理法
- 家電リサイクル法

森林管理事業に関するもの

- 森林法
  主伐・間伐に関わる行政の許可・通知・届出
- 自然公園法
  特定地域内における主伐・間伐時の許可申請書提出
- オフロード法
  特定特殊自動車の定期検査・日常点検等
- 消防法

緑化事業に関するもの

- 資源有効利用促進法
- 騒音規制法
- 振動規制法
- PRTR法
  特定化学物質の排出量・移動量の把握・届出

■ 環境委員会の開催

当社は、環境経営の一環として環境活動戦略に関する①環境活動に関する基本方針・行動計画②環境活動実績の評価・見直し③地球環境問題に関する内外一般情報、技術開発情報の収集・整理、活動の推進④環境活動に関する社内外へのPR の審議調整について、環境委員会を年2回開催し必要事項を決定しています。

■ コンプライアンス経営の推進と安全・安心の追求

当社を含む九電グループでは、事業活動に関わるすべての方に信頼していただけるよう、グループ一体となったコンプライアンス意識の徹底を図っています。法令遵守はもとより、お客さまや地域の皆さまの立場に配慮した事業活動に取り組んでいます。

また、経営の基盤である安全に関わる取組みにもグループ一体となって取り組んでいます。事業に関わるすべての人たちの安全を守り、その先にある安心と信頼につなげていくことが我々の使命だと考えています。

〈コンプライアンス経営推進体制〉

- グループＣＳＲ推進部会に加盟し、九電グループ全体でコンプライアンス推進に努めています。
- 当社では、社外取締役、労働組合委員長をメンバーに加えた、当社コンプライアンス委員会を設置し、年に２回の会議の中で、コンプライアンス違反事案の再発防止策の検討や違反事例紹介と水平展開による未然防止の取組み、法改正情報の共有化等を実施しています。また、階層別社員研修会や協力会社への教育、コンプライアンス意識調査などコンプライアンス活動の年間計画の策定と実績管理を実施しています。

コンプライアンス行動指針を中心に社会人としての心構えやリスク顕在化時の影響等について教育を実施

当社との契約締結の際、作業手順と共に当社の安全管理体制やＣＳＲ経営方針等について教育を実施

〈安全・衛生活動の推進体制〉

- 九電グループ安全推進部会に加盟し、グループ全体で安全・衛生推進に努めています。
- 当社では、全社安全衛生推進委員会を設置し、年間活動計画の策定と実績管理を実施しています。
- 事業部門ごとに、社員で構成する安全衛生会議および協力会社を交えた災害防止のための協議会を組織しており、毎月会議を開催し、安全の確保に努めています。メンバーによる安全パトロールの実施や、各現場ごとの日々のＫＹ活動ならびにリスクアセスメントなど、実効性向上に努めています。
- さらに、全事業所を対象に、経営層による安全パトロールを実施しており、安全面でのチェックに加え更なるコミュニケーションを図っています。

2020年度環境経営目標・環境経営計画

2020年度以降の中期的な目標においても、社内の自主性を尊重し活動を続けることこそが重要であると認識し、「現行水準を維持・向上すること」を基本的な考えとしています。なお、2020年度目標は、2019年度実績値に今後予想される事業環境の変化を加味し設定しました。

	環境経営目標項目	単位	2020～2022年度 目標	2020～2022年度 主な環境経営計画	関連するSDGs
1 低炭素社会への貢献	二酸化炭素排出量	t-CO_2	282以下	• 空調の適温化(冷房28℃程度、暖房19℃程度)の徹底 • クールビズ・ウォームビズの励行 • パソコン・プリンタ等の不使用時電源オフの徹底 • 始業前、昼休み、残業時等における不必要照明の消灯 • 照明の間引き及び配置見直しの実施・維持 • エレベーターの使用抑制及び階段利用の促進 • オール電化の推進	
	購入電力のCO2排出係数		0.347※1		
	電力消費量	MWh	211以下		
	車両燃料消費率(車両燃料使用量)	km/ℓ(kℓ)	13.10以上(71.4)	• 車両更新時における低公害車への計画的切替えの実施 • エコドライブの確実な実施 • 効率的ルートによる無駄のない運行管理の徹底 • 社有車のEV化を検討	
	上水使用量	㎥	830以下	• 節水意識を喚起するシールの活用などによる日頃からの節水の励行	
2 循環型社会への貢献	一般廃棄物発生量(紙類以外)	kg	1,280以下	• 一般廃棄物発生抑制及び分別徹底によるリサイクル促進 • 古紙リサイクルの徹底	
	産廃リサイクル率(リサイクル量/発生量) オフィス・工場	%	95.0以上	• 産業廃棄物(水銀使用製品含む)の分別徹底 • 産廃マニフェストの適切な運用及び適正処理確認の徹底 • 機密文書、使用済蛍光管及び乾電池のリサイクルの実施 • 社内イントラ活用、裏面利用等によるペーパーレス推進	
	産廃リサイクル率(リサイクル量/発生量) 現場	%	95.0以上		
	間伐材有効利用率	%	33.0以上	• 林地残材の有効利用率の向上、及び間伐における低質材の利用向上	
	事務用品グリーン購入率(グリーン購入金額/総購入金額)	%	95.0以上	• 電子カタログ購買システムによるグリーン購入の徹底 • 事務用品以外も極力環境ラベル認定品の購入を徹底	
3 自然共生社会への貢献	緑化工事受注件数	件	200以上	• 緑豊かな社会に貢献するため、緑化工事を推進	
	生物多様性への取組み 希少種の保全活動			• 定期的なデータ収集及びマッピングによる希少種の適正管理 • 蓄積・分析したデータのステークホルダーへの提供など適正管理へ向け各種活動の展開・改善を実施	
	生物多様性への取組み 事業における環境リスクの低減			• 生物多様性ガイドラインに基づき水源涵養事業のアセスメント実施 • 各作業項目におけるチェックリストの活用による生物多様性へ配慮した施行推進並びに施業完了後の影響評価の実施 • 生物多様性配慮事例の蓄積・集約および当社が保有する技術・ノウハウを活かした発注者への提案を実施	
	化学物質使用量の削減			• 周辺環境への影響を最小限に留めるとともに、使用する化学物質の種類についても代替物質の活用などにより極力PRTR制度対象物質の使用を抑制	
	環境上の事故及び緊急事態への準備・対応			• 環境上の緊急事態を想定した訓練の実施および訓練終了後の検証・改善 • リスクを元に対象箇所をサンプリングし、訓練実施(緑化部2件・林業部1件)	
4 社会との協調	環境に関するコミュニケーションの推進			• 環境経営レポートの内容充実、ホームページ等での公開 • 協力会社やお客さまへのコミュニケーションツールとして積極的に活用	
	地域における環境活動の推進			• 清掃活動、植樹活動などのボランティア活動への積極的な参加 • くじゅう九電の森での環境活動のモニタリング実施(100%実施)	
5 環境管理の推進	環境マネジメントシステム(EMS)の自立運用			• 内部監査(運用業務支援)の際、産業廃棄物発生箇所については、EA21監査を同時に実施 • 環境関連データの把握、環境活動実績の分析・評価の実施	
	環境教育の実施及び環境情報の共有化			• 九州電力主催の各種教育への積極的な参加、社内環境勉強会の検討・実施 • イントラネットを活用した環境情報の共有化	
	環境関連法令順守の徹底			• 環境法規等の特定および遵守状況評価の実施	

※1　2020年度以降の電力消費に伴うCO2排出係数：公表値の更新に合わせ随時置き換え

代表者による全体評価と見直しの結果

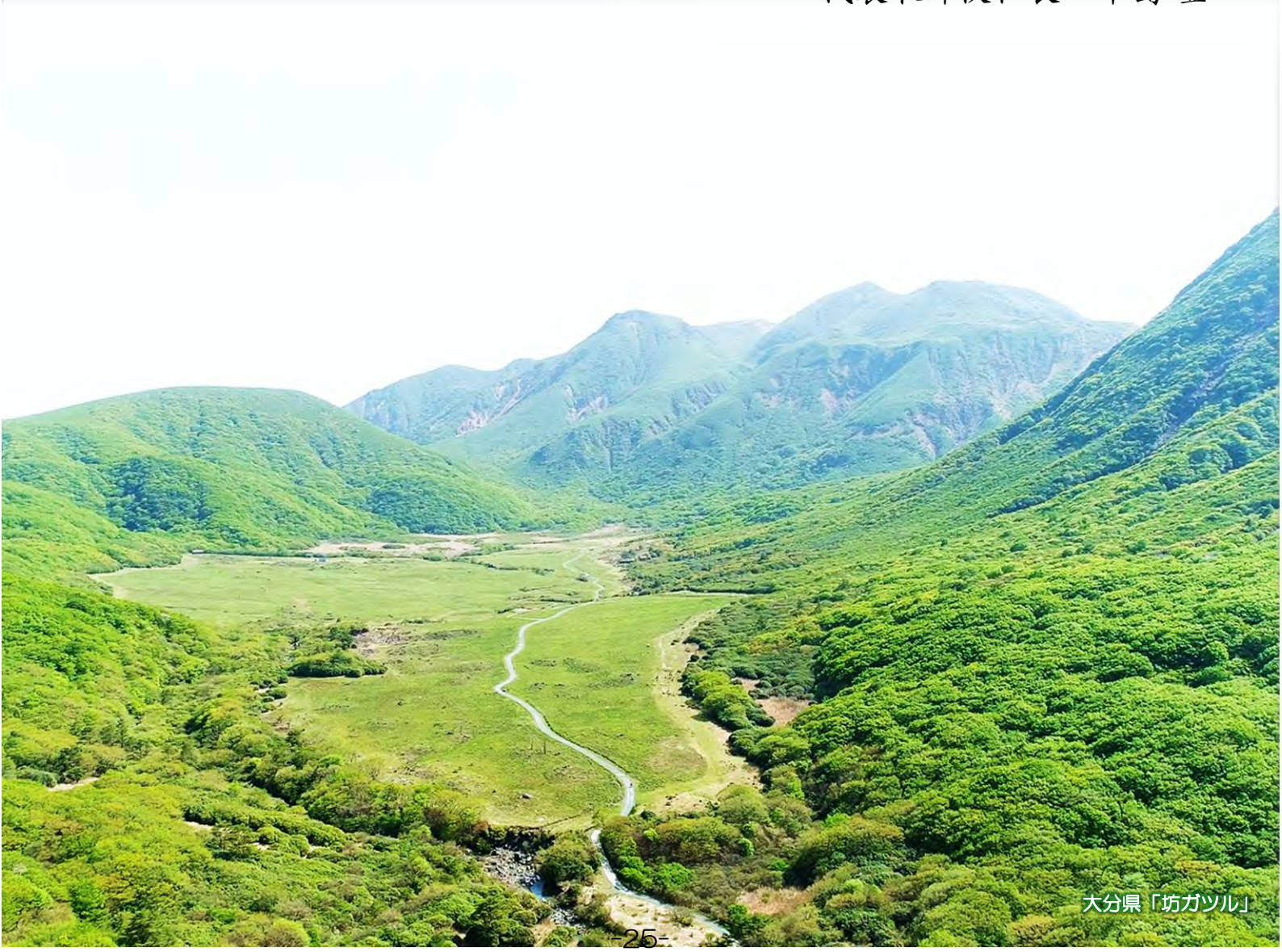
- 環境負荷低減に対する取組みについては、概ね年度目標を達成しています。これまでの推移を見ても自主的な改善活動が定着していることが確認できます。環境経営の定量目標についても実績を分析したうえで翌年度に向けた必要な見直しを行い、単に数字を追いかけるだけでなく、何のための目標であるかを的確に把握できています。

- 横断的な社内勉強会であるイノベーションスクールにおいて、社会的な関心が向けられるＳＤＧｓを取り上げましたが、当社が過去から行ってきている環境への取組みがＳＤＧｓの目標達成に有効であることをあらためて確認しました。さらに、新たな「気づき」をこれらの取組みに付加して推進することが求められていると思います。

- 「環境経営レポート２０１９」は環境経営レポート大賞・九州の特別賞と環境コミュニケーション大賞の優秀賞を受賞しました。事業活動に沿った優れた環境保全活動が評価されており、事業活動と環境経営の取組みを一体化して進める姿勢が、昨年に引き続き社外からも称賛されたことは大変光栄です。引き続き当社の強みを活かした取組みを進めていきましょう。

- 皆さんの環境経営に対する弛まない努力を支え、やりがい・働き甲斐を感じられる企業風土づくりを通じ、社会からの声にも応えていきます。

代表取締役社長　中島 豊



大分県「坊ガツル」

表紙写真【日向幹線敷地保全工事】について

当社は、九州電力送配電㈱の電力送電線新設工事に伴い、鉄塔の敷地保全対策（288基）を受託しています。
山間部の鉄塔の建設において、削られた表土を張芝などにより、元の植生に回復していくことを目的としており、豪雨などにも充分耐えられる工法を採用しています。

工　期：2015年5月～2022年6月（運開予定）
区　間：東九州変電所　～　ひむか変電所（亘長：124km）
　　（大分県臼杵市）　（宮崎県児湯郡木城町）